

大好きじいちゃん

桜町小・6 安藤 力斗

七月二十日じいちゃんが亡くなってしまいました。入院中お見ま  
いに行っているときどんどん元気がなくなっていくじいちゃんを見  
るのがとてもつらかった。また元気な姿が見れると思っていたので  
とてもつらかったです。

ぼくが一番上のお兄ちゃんがたくさん泣いていた。思い出して何  
日も泣いていた。あんなに泣くお兄ちゃんを見るのは初めてだった。

ぼくには十二年の思い出だけとお兄ちゃんは十七年の思い出。ぼ  
くよりたくさんの思い出があるし、じいちゃんのことをたくさん知  
っていてじいちゃんにとつての初孫。「孫達に囲まれて幸せだ。特  
に健悟はおれの宝だ。」ってよっぱらったじいちゃんの口ぐせでし  
た。お兄ちゃんはぼくよりもっともつとつらかったんだと思います。

とにかく声が大きくて旅行に行ったときどこにいるかすぐに分  
かったじいちゃん。お酒が大好きでよっぱらったときには、すぐに  
だきついてきてキスをせまってきたじいちゃん。「おもちゃ買に行  
くぞ。」って言ったときばあちゃんにおこられても笑って「おれがし  
てあげたいんだよ。」が口ぐせの優しいじいちゃんでした。

ぼくのお父さんは五人兄弟です。じいちゃんにとつての孫は十一  
人います。みんなで集まったときのじいちゃんはすごく幸せそうな  
顔を一日中していました。

じいちゃんとのいちばんの思い出は、いっしょにいろいろな銭湯

に行ったことです。お父さんや兄弟がお風呂好きになったのもじい  
ちゃんが好きだからかもしれないです。遠くの銭湯に行ったときに  
は、美味しい物を食べられるし、池の平温泉は水着を着て家族みんな  
で入れたのでとても楽しかったしうれしかったです。

でも、じいちゃんはあまり長ぶろしないので聞いてみたら、「ふ  
ろの後のお酒が楽しみなんだよ。」と笑って話していた顔をいつまで  
も覚えています。

ぼくはもうすぐ中学生。じいちゃんに制服姿を見てもらいたかっ  
た。車のめん許をとってたくさんの銭湯や温泉に連れて行ってあげ  
たかった。家族が増えてひ孫にあの笑顔を見せてあげたかった。短  
すぎる。もつともつといっしょにいたかった。

弟はぼくよりもつと短く五年くらいしか思い出がないです。ぼく  
たちが伝え続けてあげたいと思う。ばあちゃんが一人でさみしくな  
いようにたくさん会いに行つて思い出をいっぱい作りたいと思いま  
す。お兄ちゃんたちは自転車がよく遊びに行つているので、ぼくも  
行けるようになったら兄ちゃんたちと自転車で行つて焼きいもをば  
あちゃんといっしょに食べたいです。じいちゃんの大好きなアーモ  
ンドチョコレートをばあちゃんといっしょに食べながら思い出話も  
したいと思えます。ばあちゃんにはこれから後かいしないように、  
じいちゃんにしてあげられなかったことをたくさんして、見せてあ  
げられなかったことをたくさん見せたいです。

最高にかっこいいじいちゃん。優しかったじいちゃん。大好きな  
じいちゃん。今までありがとう。これからもぼくたちを見守ってい  
てください。じいちゃんのこと絶対に忘れないよ。